

しいのき



新規登録・指定の文化財

名誉館長 三 隅 治 雄

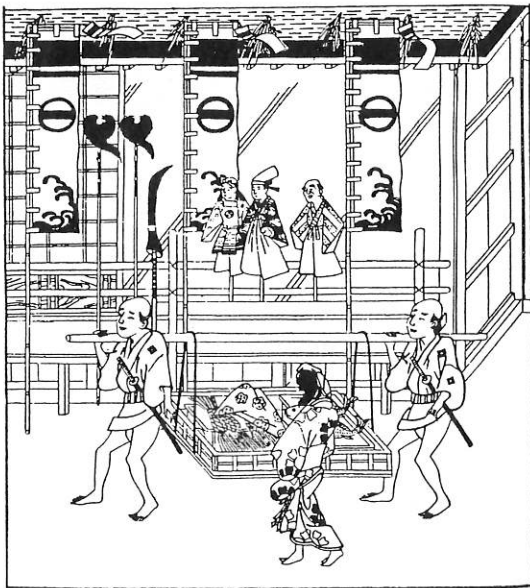
当館の誕生以来、都市化いちじるしい中野にも、古代から近代までの遺跡、遺物が予想以上に残されていたことがクローズアップされましたが、その中でも重要と目されるもの7件に対して、この4月、区では文化財保護審議会の答申をえて、文化財としての登録・指定を行いました。登録の3件は、江古田の蓮華寺にある哲学堂の創設者井上円了の墓並びに大和町の蓮華寺にある江戸小日向の切支丹屋敷の沿革を刻んだ山荘の碑、そして萬昌院功運寺に残る吉良家四代の墓で、指定の4件は、全国にある十三仏板碑の最古グループに属する清谷寺の十三仏板碑、宝仙寺保管の中世以来中野一円に君臨した堀江家の戦国期の古文書、当館の隣りに立つ椎の木、そして江古田の水川神社の秋祭りを賑わす獅子舞です。寺を尋ね、道を歩き、祭りをのぞいて歴史を知る。それも中野です。

文化財よもやま話

菖蒲の節句

端午の節句に関係ある植物として誰もがまず思い浮かべるのは、菖蒲だと思います。もともと今日のような形で節句が行われるようになったのは江戸時代に入ってからですが、節句の行事は奈良時代にはすでに行われていました。朝廷では節会を催し、貴族たちは「菖蒲の鬘」といって、冠に菖蒲を結びつけて参内しました。清少納言は、『枕草子』に、「節は五月にしく月はなし。菖蒲、蓬などのかをりあひたる、いみじうをかし。…」と、宮中から民家まで、軒に菖蒲を葺いていると書いています。子供たちは、菖蒲太刀や菖蒲鉢巻を身につけたり、菖蒲を束ねたもので打ちあう遊びをしました。

このように、節句のいろいろな行事に菖蒲が使われるのは、季節のかわり目に発生する邪気をはらうためです。菖蒲は魔よけになると信じられていましたが、煎じて飲むと鎮痛等にも効くとして薬草としても用いられてきました。また、現在の全国的風習である菖蒲湯も、このような理由から、独特の香りがして、身体があたたまってよいそうです。

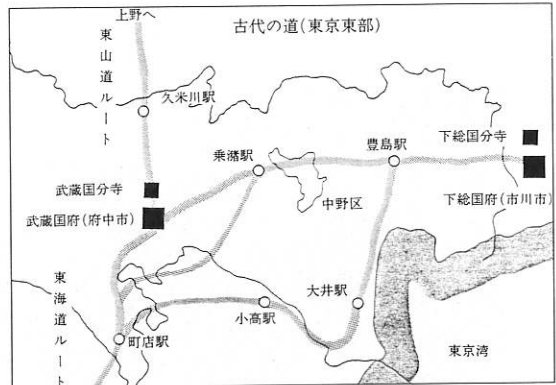


▲五月の節句には軒に菖蒲をふきました。
『大和耕作絵抄』より

大地に眠る歴史

どうしてないのか古代の遺跡

奈良・平安時代の遺跡は、どうしたことか、今まで中野には見つかっていません。その理由について考えてみたいと思います。



当時、わが国は、中国(唐)から法律(律令)を学び、律令国家として新たなスタートを切りました。これによって地方の行政制度も整備され、各地に国府(都庁・県庁にあたる)も置かれるようになりました。中野区は武蔵国に属し、国府は今の府中市に置かれました。これにともなって方々に点在していた村々も移動させられたりしたようです(計画集落)。また、官道(国道にあたる)も整備され、中野区では北部に東西方向に、武蔵国府から下総国府(今の市川市)を結ぶ道筋が横断していたものと考えられています。

そして、天平13年(741)には「国分寺の詔」によって、全国に国分僧寺、国分尼寺を建立することになり、律令国家の列島大改造は急激に進められてゆくの。これらの諸事業には、当時の村々に住む一般の人々が従事させられました。そのため、国分寺の建立に必要な村々、国府の整備に必要な村々、水田の開拓に必要な村々は、それぞれの目的に応じて動かされた可能性は高く、官道の道筋に必要なわずかな村だけが残されたものと思われま。

こうして、古墳時代後期(6~7世紀)まで、区内あっちこっちにあった村は姿を消したのではないのでしょうか。しかし、今後、この時代の遺跡が発見される可能性も残っています。

***** 1991年指定・登録文化財紹介 *****

1991年、指定・登録文化財が、中野区文化財保護条例第19条の規定により、中野区文化財保護審議会（会長三隅治雄）で検討し、教育委員会で、下記のように決定しました。

指定文化財

◎醤油屋のしいの木

所在地 江古田4-3-4

解説 樹高約15m、幹周399.5cm、樹齢6～700年の区内最大のスダジイで、江戸時代から御成街道（現新青梅街道）を利用する人々に親しまれてきたものです。

◎江古田の獅子舞

伝統保持者 江古田獅子舞保存会

解説 毎年10月第1日曜日に江古田氷川神社祭礼で舞われる獅子舞で、一人立ちの三匹の獅子の周りに四神を配置して巡行する点や、獅子頭の形状などに、数百年来の伝統をよく残しています。

また、新たに発見された山崎家文書の中にある由来書によれば、江古田の新田開発に深くかかわった形で伝承されたものと考えられ、歴史的な意味から言っても一層重要性の高いものと言えます。

◎堀江家伝来の朱印状（3通）

管理者 宝仙寺 中央2-33-5

解説 室町時代中野郷をはじめ、江戸時代中野村名主となった堀江家に代々伝えられてきた朱印状です。

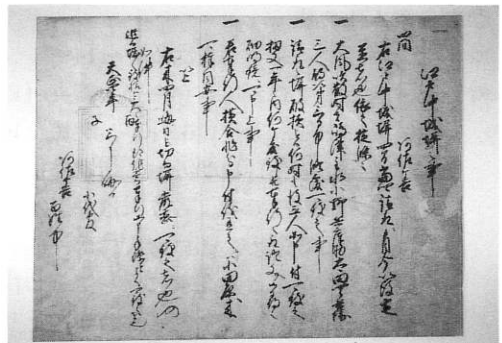
このうち2通は、天正4年(1576)と天正12年(1584)に小田原北条氏(氏政・氏直)から出された朱印状で、戦国時代末期の中野郷が堀江氏の支配下にあったことを示すと同時に、北条氏の支配のあり方を示す古文書として重要なものです。特に前者は地元に残る最古の古文書でもあります。残り1通は天正18年(1590)に豊臣秀吉が出したもので、秀吉支配下に入った中野郷の様子を知る貴重なものと言えます。



▲醤油屋のしいの木



▲江古田の獅子舞



▲堀江家伝来の朱印状

◎ 清谷寺の十三仏板碑

所在地 清谷寺 沼袋3-21-7

解説 応永6年(1399)の銘を持つ板碑で高さ940mm、幅315mmを測ります。

大日如来を主尊にした十三仏供養のために造られたもので、全国の十三仏板碑のうち年代が明確なものとしては最古のグループに属しています。保存状態もよく、種子の配置等様式的にも板碑研究上、貴重な資料と言えます。

登録文化財

▶ 清谷寺の十三仏板碑



◎ 山荘の碑

所在地 蓮華寺 大和町4-37-15

解説 「山荘」とは山屋敷・切支丹屋敷とも言われ、キリスト教徒を禁固した、切支丹奉行井上筑前守政重の下屋敷のことを指します。この碑は、その沿革を文化12年(1815)に記したものです。

江戸幕府のキリスト教政策を考える上では重要な金石文と言えます。

▶ 山荘の碑



◎ 井上円了の墓

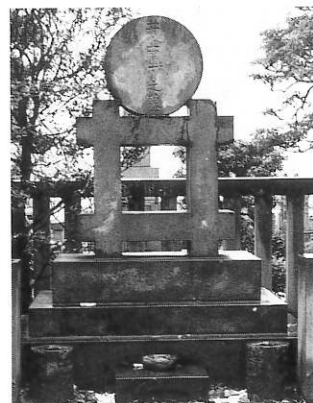
所在地 日蓮宗蓮華寺 江古田1-6-4

解説 哲学堂創設者である井上円了の墓です。円了は哲学堂を建設し、迷信打破や仏教の刷新運動を主導する等、社会教育の発展に尽くしました。

また、妖怪学を創始したことで知られ、その後の民俗学や哲学に大きな影響を与えました。

特に、その奇抜なデザインは、すでに指定文化財となっている哲学堂とともに、円了の特異な思想と業績を知る上で重要なものと言えます。

▶ 井上円了の墓

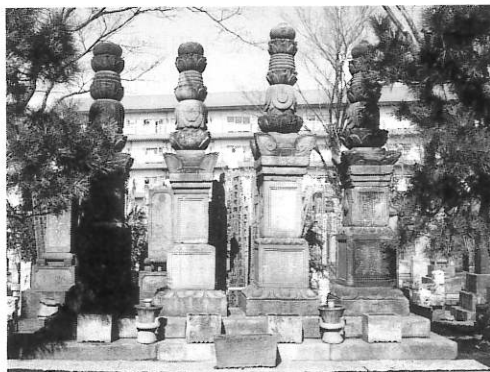


吉良家4代の墓

◎ 吉良家4代の墓

所在地 萬昌院功運寺 上高田4-14-1

解説 忠臣蔵で有名な吉良上野介義央(1702没)の他、義定(1627没)、義彌(1643没)、義冬(1668没)と絶家になるまで4代の墓です。吉良家は今川家の親族として栄え、江戸時代には、儀式典礼をつかさどる高家に列し、その代表格として、幕府と朝廷との間をとりもつ役割りを担っていた名族です。



古文書つづり

村差出明細帳

江戸時代の村のようすを簡単に知るのには、村差出明細帳（むらさしだしめいさいちょう）とよばれる種類の古文書が便利です。

これはその村の田畑の石高や道、山林、川、用水、橋、古跡、家数、人数、牛馬数、寺社やほこら、諸職人、水旱損の有無、朱印地など非課税地の有無、農業以外での男女の稼ぎその他を書き出して、村役人が連印して代官所あるいは領主の役所に、村絵図と過去30年間の年貢割付帳の写しを添えて提出する帳面で、いわば村勢要覧です。

ただ、代官や領主が支配の参考にする帳簿ですから、作成する村側では自分たちの不利にならぬよう、自村のことを窮乏した村のように記載する



▲文政4年(1821) 中野村「村差出明細書上帳」

のが普通で、そのぶん割り引いて読む必要があります。とはいえ、写真のように村内43種 110人の営業者の名前を記載する例もあり、村差出明細帳は村のようすを示す貴重な資料となっています。

中野では、17点の村差出明細帳と、同類の「村鑑帳(むらかがみちょう)」や「御巡見につき品々書上帳」が確認されています。もっとも古いのは享保10年(1725)の『江古田村村鑑帳』です。

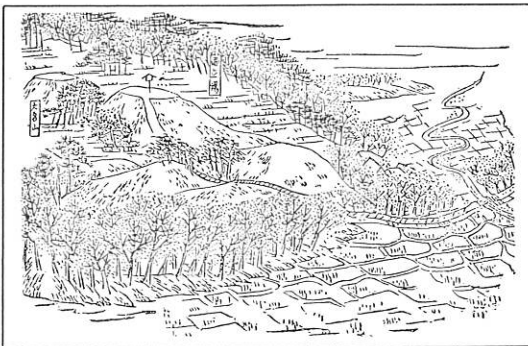
中野往来

将軍と桃園

春爛漫、花の季節になりました。

中野は、八代将軍吉宗が鷹狩りや、お花見に来たところ です。

中野三丁目の桃丘小学校付近から高円寺にかけての 一帯には、江戸時代の中頃まで桃園がありました。ここには、大名山とかお立場という名の 高台があり、地元の方の話では、中野三丁目27番 あたりに「おたつば」と呼ばれたところがあった そうです。ここが、吉宗ゆかりの「御立場」とい われています。



▲「新編武蔵風土記稿」より

中野昔話

遅れた鳩

百万遍のお念仏のときに、お釈迦様の 涅槃図をお寺（東光寺）さんで掛けるん です。掛け軸をね。まわりに動物たちが 寄ってますね。それがね、涅槃のときに いちばん遅れたのが鳩なんですってね。 鳩がおしゃれで、おしゃれしてたので間 に合わないで、いちばん遅かったってい うこと聞いてますよ。

それだから、ご不幸があったときは、 もう着てるまんまで駆けつけるべきだっ てことを、あたしはおばあさんから聞いて ますよ。そんな着物かえたり、おしゃ れしていくもんじゃないって。仕事着の ままで駆けつけても失礼にならないって。 そういうことを教えてくれましたよ。

(上高田 女 明治41年生)

『中野の昔話・伝説・世間話』から

事業報告

各種事業経過

事業名	内 容	期 間
ミニ展	「お正月展」	1/5 ~ 1/27
	「文化財防火デー普及展」	1/19 ~ 1/31
	「おひな様展」	2/2 ~ 3/3
歴史講座 「近世江戸学 研究」	「絵島生島事件」 講師 川崎房五郎氏(江戸東京歴史研究家)	2/2
	「江戸の俳句」 講師 松尾靖秋氏(工学院大学名誉教授)	2/9
	「江戸の祭り」 講師 三隅治雄氏(当館名誉館長)	2/16
	「下肥街道」 講師 伊藤好一氏(関東近世史研究会会長)	2/23
	「江戸時代の暦」 講師 岡田芳朗氏(女子美術大学教授)	3/2
	「江戸の古建築」 講師 宮崎勝弘氏(日本民俗建築学会理事)	3/9
	「江戸のくらし」 講師 谷川章雄氏(早稲田大学専任講師)	3/16
文化財調査	「区内絵馬調査」 茂木文化財研究所	3/8 ~ 11
埋蔵文化財 調査	遠藤山遺跡 発掘 資料整理 報告書刊行作業	1990.11/1 ~ 2/28
	中野城山遺跡試掘調査	1/17 ~ 2/23
	中野城山遺跡 本調査	2/25 ~

NEWS

NEWS

英文パンフレット刊行

当館も国際化をめざし英文パンフレット
を刊行いたしました。海外からの方々は
じめ広くご利用いただければ幸いです。

Welcome

Nakano Historical Museum!!

寄贈資料一覧

1990年10月~12月
敬称略・受入順

資 料 名	点数	氏 名
消防刺子・富士講装束他	2組	矢島悌次郎
教本・珠数他	4	石井 幸弘
慰問袋・赤禪他	3	上田 太郎
蚊帳・柳行李	2	奥泉 正一
セルロイド筆箱・硯 他	6	松原 基子
下駄・ゴム底ぞうり	5	神田 千代
湯タンポ	2	中村 敬和
三宝	1	斉藤 貞子
シンガーミシン	1	深野辰五郎
オルガンタンス	1	藤田 子儀
縄文土器・石器	34	星野 英紀
張り板・鳶口他	7	白井千代松
アサヒグラフS11~21 他	341	細井 淳一
まないた	1	宇塚 罔廣
凧・人形・土鈴・面 他	177	渡辺 ちよ



▲「おひなさま展」開催風景

※4月1日付で、管理係田中不二夫が税務課へ、
渡辺博充が指導課から、専門研究員寺崎弘康が
神奈川県立博物館へ異動しました。

入館状況

1991年1月~3月(71日間) (人)

一 般	行政視察	学校教育	合 計
11,878	471	804	13,153

発行年月日 1991年4月1日

山崎記念
編集・発行  中野区立歴史民俗資料館

中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221

FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 3中教社第1号)